

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋 1-9-1	氏名	野村証券株式会社 代表執行役社長 森田 敏夫
特定事業者の主たる業種		65金融商品取引業, 商品先物取引業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		証券業全般。 全国で160の店舗を展開している。大阪府内では14店舗を有している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	3,275 t-CO ₂	3,065 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,739 t-CO ₂	3,498 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	-1.6 %	4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-1.8 %	4.2 %	6.5 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>第1年度に1.6%の増加してありますが、第2年度は4.0%の削減、第3年度も6.5%の削減となり、2年度連続での高い削減率の達成となりました。支店の照明設備のLED化、空調設備改修実施により電力使用量削減効果が出ております。また、基幹店である大阪支店での節電活動をかなり積極的に実施した成果が表れております。 今後も一層の環境配慮行動の実施等を進めてまいります。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・全社的に温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムの導入をし、地球温暖化の対策の推進体制をすすめている。 (※1参照のこと) ・平成18年度よりクールビズを実施している。
<p>地球温暖化の対策の推進体制 ※1</p>

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1216) 機器更新	耐用年数の経過した空調設備については、随時、省エネタイプの空調に更新していく。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	枚方支店	コード (1216) 空調設備改修	・枚方支店の全館空調改修工事を実施済み (平成27年度) ・堺支店の空調改修工事を実施予定 (平成28年度)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	豊中支店、岸和田支店	コード (1218) 全館照明器具の更新	全館照明器具の更新 ・岸和田支店の照明器具更新工事を実施済み (平成26年度) ・豊中支店の全館照明器具更新工事を実施済み (平成27年度)	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5111) クールビズの推進	夏季における服装 (クールビズ) をして冷暖の使用を抑える。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5112) 照明の消灯	空室等、不要な照明を確実に消灯すると共に窓際の照明の消灯を徹底する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5112) 照明の間引き	事業所内の照明の間引きの徹底や可能な範囲で窓際等の照明の消灯を徹底する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5113) OA機器の省電力設定	パソコン・コピー機等のOA機器は、省電力設定にする。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5131) 推奨設定温度の実行	冷暖房設定温度を政府推奨温度を踏まえ、夏場28℃、冬場19℃で継続徹底し、必要区域・時間に限定し使用する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9		GHG排出		コード (0)		0年度 ～ 0年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2114) 自動車の適正な維持管理	・日常点検、整備マニュアルの作成・配布を実施する。 ・日々の始業点検、定期点検の完全実施により良好な機能を維持する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2121) 低燃費車の導入	・府内の営業車の更新時に、燃費基準達成車を導入する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2123) エコドライブの推進	・府内の営業車はエコドライブを実施し省エネ運転を推進する。(空ぶかし、急発進・急加速運転等の削減等) ・アイドリングストップを徹底する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(2199) 情報化の推進	・府内の営業車の更新時に、ドライブレコーダーの搭載を徹底する。 ・VICS搭載カーナビゲーションシステム等による渋滞回避、ETCの導入する。	26年度 ～ 28年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都新宿区西新宿八丁目5番1号 野村不動産西新宿共同ビル	氏名	野村不動産マスターファンド [®] 投資法人 執行役員 吉田 修平
特定事業者の主たる業種		65金融商品取引業, 商品先物取引業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>主として不動産関連資産の特定資産に投資し、中長期の安定した収益の確保と運用資産の着実な成長を目指して運用を行う。平成29年7月末時点において、全国で268物件の資産を取得済みであり、うち大阪府内では5物件の事業所が対象。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,767 t-CO ₂	12,454 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,907 t-CO ₂	13,939 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	7.1 %	-50.6 %	-52.5 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	12 %	-45.2 %	-46 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>基準年度(主にオフィスビル、延床面積86,867㎡)から第2年度に延床面積17,996㎡(ユバ[®]・サリティアーク大阪)の商業施設の事業所を追加し、合計面積が104,864㎡に増加。基準年度の温室効果ガス総排出量原単位は0.077 t-CO₂/㎡、26年度は0.072 t-CO₂/㎡であったが、事業所追加後の27年度原単位は0.117 t-CO₂/㎡、28年度原単位は0.119 t-CO₂/㎡となっている。</p>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>基準年度はオフィスが4物件でしたが、27年度に温室効果ガス排出量原単位の大きい商業施設(ユバ[®]・サリティアーク大阪)1物件が加わった事により、27～28年度温室効果ガス削減率(原単位ベース)が大幅に悪化しました。オフィス3物件で高効率の空調改修工事を実施し、その他事業所でもエネルギー使用の最適化・効率化、入居テナントと一体運用対策推進、オフィス1物件でのE S C Oサービスを活用した省エネルギー対策など、原単位ベース削減に努めましたが、3カ年の温室効果ガス削減目標には及びませんでした。</p>	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

本投資法人では、エネルギー管理統括者を筆頭に、エネルギー管理企画推進者、各事業所のプロパティ・マネージャーや建物管理会社管理員、入居テナントと一体となって運用対策を推進しており、エネルギー使用量の削減を継続していく。また、LED化や高効率の機器を導入し電気の重要平準化を目指す。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) 給湯設備の運用改善	夏季における給湯設備の運転停止	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	野村不動産 大阪ビル	コード (1199) 照明設備の運用改善	共用部照明の管球間引き	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	野村不動産 四ツ橋ビル	コード (1199) 照明設備の運用改善	共用部照明の管球間引き	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	野村不動産 西梅田ビル	コード (1199) 照明設備の運用改善	共用部照明の管球間引き	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	SORA新 大阪21	コード (1218) LED照明器具の導入	LED照明器具の導入	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	SORA新 大阪21	コード (1224) ESCOサービスの活用	外調機の外気量制御、空調機の変風量制御、駐車場ファンの間欠運転制御の実施	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	野村不動産 西梅田ビル	コード (1216) PAC空調機の更新	高効率機器の導入。空調改修工事実施。	26 年度 ～ 27 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	野村不動産 四ツ橋ビル	コード (1218) LED照明器具の導入	共用部LED照明器具の導入	28 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	ユニバーサルシティ ウォーク大阪	コード (1218) LED照明器具の導入	共用部LED照明器具の導入	28 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	SORA新 大阪21	コード (1216) PAC空調機の更新	空調改修工事実施	26 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	野村不動産 大阪ビル	コード (1216) PAC空調機の更新	空調改修工事実施	27 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(3)その他の抑制対策
